

テーマ別名刺交換会 記録シート

テーマ	介護現場を支えるテクノロジー ～AI&ICTのことを深掘り				
リーダー	本條（ゆいの里）				
進行補助	杉島 （高島市社協）	記録	中本 （グロー）	参加者数	11名
<p>1. 課題提起されたこと、グループでの意見交換の視点（箇条書き）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度厚労省の生産性向上のモデル事業を受託。居宅、訪問介護事業で iPad を導入した。 ⇒便利だと感じ AI&ICT 化を進めていくこととなった。 ・持ち物チェックアプリ、音声入力できるアプリなどを導入している。 ・目的は ICT を活用して生産性・業務改善を利用者の生活や職員の業務を楽にすること。 ・インカムは平成 17 年から導入。デイサービスで利用。特養では特浴介助と看護師間でまずは利用。介護度重度化し、介助は二人体制に。当日リーダーが所持する。 ・新人職員や異動職員に使わせてあげてほしいという声が上がってきている。 ・介護ロボットの助成金で眠りスキャンを看取り対象の方に導入。（マット下に設置。心拍など計測。ベッドから離れると知らせがある。） ・眠りスキャンを導入するにあたり Wi-Fi 環境が必要だったが環境整備のためには助成金はおりにないので、法人の持ち出しで進めていった。 <p>2. 参加者の気づき、課題と感じていること（箇条書き）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅型有料老人ホームを開始。管理者をしておりペーパーレスを進めていた。高齢の方には導入時に反発があったが、「介護のひとつです」と導入した。食事量やバイタルなどデータ管理や洗い出し時の効率化が図れた。iPad のテレビ電話で往診 Dr に外傷などをテレビ電話で部位を診ていただいて通院が必要なのか早期判断できる。 ・介護ソフト「ほのぼの」導入している。入浴、バイタル、食事量を一括管理できているので、他職種との情報共有がしやすくなった。iPad を 10 台ほど導入。写真を撮影して共有できること、記録の入力がどこでもできることが大きな利点だと感じている。不便に感じているが大きなトランシーバーを使用している。専門職と各フロアに渡して活用できていない。 ・監査資料などはペーパーレスでもよいのか。⇒印鑑を押すもの以外はよいと聞いている。 ⇒大阪市は印鑑不要でサインでよいと聞いている。 ・眠りスキャンを導入したい。ほかの場でもお聞きした。 ・かかわりが増えれば記録が増えるので、どうしたものかと考え、iPad 導入。写真で状況を目で見てわかるように共有できることがよいと感じている。まだ導入して日が浅いのでこれからなところがあるが、記録のための残業は減ってきたことが評価できるかなと感じている。インカムは 5、6 年前から導入している。 ・記録システムを導入した。外国籍の職員がいるが、定型文を使うことで記録ができるようになった。眠りスキャンを 10 月 7 日に導入した。記録を読みときながら日々の支援に活かしていきたい。 ・昨年 7 月から介護記録などを電子化。導入当初は職員の中でも抵抗があったりしたが、業務の効率化につながった。記録のため残業している実情があった。定型文などもあり、記録自体スムーズにできるようになった。通所リハビリテーションをしており、毎月居宅に情報提供して 					

いるが、定型文ばかりで内容が薄くなってきている課題あり。

- ・入所前の訪問時に iPad で施設紹介動画を見ていただくことで、入所後のイメージをつかんでいただきやすくなったように感じている。

3. 現場の課題に対応して、だれと、何を創造実践していきたいか（箇条書き）

- ・導入時には、担当を決めて実践につなげていく。必ず得意な人がいると思うのでそういった方に任せていく。
- ・産業政策課として理工学部の学生さんと福祉現場の課題等（記録や移乗介助や見守りシステムなど）の開発に取り組んでいけたらなと考えている。守山市で開発企業と福祉施設や病院などと共同でされている。すごく大事な機会かなと感じている。
- ・地域医療介護総合確保基金が今年から ICT 機器も対象になったので、もとの介護記録などと連携して使えることなど要件はあるが、県としても来年から対象としていく予定。導入したところの話を聞くなかで、バイタルが細かくとれるようになった、眠リスクンは看取り時にすぐかけつけられるので職員の精神的負担を軽減することにもつながった、などと聞いている。